

いーぶん

● 素敵なパートナーになるために ●

第24号

平成24 (2012) 年3月

特集 いろいろな分野の男女共同参画



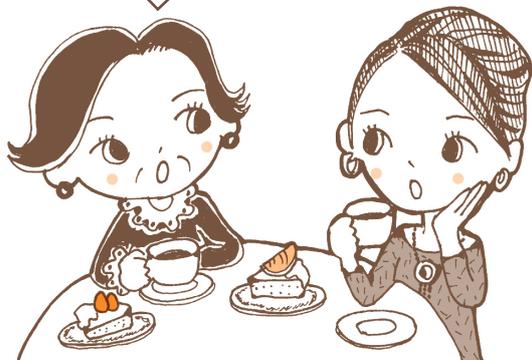
男女共同参画の「参画」って何でしょう？

「参画」とは、単なる参加ではありません。社会のさまざまなルールやシステムを作り上げていく場合に、最初から男女が一緒に考えていこうということです。そうして得られた成果は、男女が対等に分け合い、責任もしっかりと両方が担います。「女は男並みの扱いじゃかわいそうだから、負担を減らそう」ではないのですね。

いろいろな分野の男女共同参画

「男女共同参画」っていうけど、
トップにはまだまだ女性が少ないわね。

意識は変わっているように思うけど……
どうしてかしら？



今回のいーぶんでは、自身も起業し、
地域活動グループでの会長も務める
女性にインタビューをしました。
トップとしての経験をお話いただきます。

大島八重子 さん

一宮市に生まれる
料理研究家
西洋御菓子「野の花」主宰
平成22年度には、一宮ライオンズクラブ
会長を務める。
「湊屋倶楽部」現会長



インタビューー：ケーキ店「野の花」は、どのように起業されたのですか。

大島： もともとお料理を教えるのが仕事でした。その傍らお菓子作りは趣味でしておりました。追求しているうちに注文をいただくようになったのです。これを商売に結びつけようと考え、どちらに転んでもいいからやってみようというのが動機です。

宣伝はほとんどせず、静かにオープンしました。ただ口コミだけで広がりました。来ていただいたお客様に宣伝していただいたのです。

目立つ看板もなく、お客様が探しまくって来てくださる意地の悪い店を買きました。人間で、逆の心が働くものです。隅の方はのぞきたくなる、細い奥に入りたい、高い所に登りたい……。この心理を狙ったわけです。おかげさまで、その狙いが的中したのです。

インタビューー：起業に必要な心構えのようなものはありますか？

大島： 起業の方法としてはいろいろあるんだけど、自分で空気を読む、時代を把握する、そしてどういうセンスを持ってこれば人は認めるかということを考えないとイケませんね。周りに惑わされず、自分を貫くこと。あわてないで、待つということ。待つからにはそれなりの光るところがないと認められない。これだと思います。

インタビューー：起業の際に大変なことは何ですか？

大島： 事業を立ち上げて、持続するってことは大変。広げるのは簡単。大きくなった器を最後に片付けることはもっと大変なことです。

私は元気なうちに片付けたいのです。自分の将来をきちんとしなくてははいけません。意外とアナログ人間の私は感じるんですよ、「ああ、ここが退け時だなあ」って。

※「西洋御菓子 野の花」は、2012年3月10日閉店予定

インタビュアー：平成21年に活動が始まった湊屋倶楽部のほうはいかがですか？

美濃路起宿にある「湊屋文右衛門邸」を保全を含めて使って残そうという事業ですね。

大島： 湊屋のほうもね、あせっていませんけれどね、いい方向に展開しそうですよ。



インタビュアー：保存のためには資金が必要だと思いますが、朝市や喫茶など、
だんだん事業が広がっていますね。

大島： ものの眺め方・考え方でね、何をやるにもね、金がないとできない。人材がないとできないって言うけれども。なきゃないなりに方法を考えれば見つかるということですね。

掃除も大変でした。でも昔の家は磨けば光ると分かっていたから、みんなできれいに磨きました。よい大工さん達にも恵まれて、協力していただいて。計算もなく、ただ一生懸命やっていると、不思議とそういういい人がまわりにやってきます。

「どうぞおくるぎください」とやっているとお客様もいらっしゃるし、メディアは黙ってても取材に来てくれます。それなりに仕向ければ必ずお客さんは来る。その価値観さえ作れば絶対人が来る。訴えるものがあれば賛同者は集まるということです。

インタビュアー：そういうふうには引張っていく立場のご苦労もあると思いますけれど…

大島： いえ、大変なことはもちろんありますけれども、自分が読んだ計算がだんだんはまってくる達成感があります。より相手の心をつかむことですよ。みんなに認めてもらって、納得してもらおう…それがすべて。



インタビュアー：女性で初めて、一宮ライオンズクラブの会長を務められました。

大島： ある人から「大島さん、会長をやってみては」と言われて……。その人は一宮ライオンズクラブにも、女の視点から新しい空気を作ったかっただけでしょう。私はこの立場を与えていただいたことに感謝し、お受けしました。

この組織において、数少ない女性はとても目立ちます。ですから、それなりの確固とした意見を常に持っていないといけません。こうなったら、男も女もありません。女だからという甘えの心理なんてもってのほかです。おかげさまで、周りの男性はこの私を認め、サポートしてくれまして、その立場を遂行させていただきました。

インタビュアー：起業してよかったことを教えてください。

大島： この事業をしていて何が良かったかって言うと、「人とのふれあい」です。これはすごい財産です。

最近思います。やがて71歳になりますけれど、まだまだテーマが残っているようです。まだ引退するには早いぞと。引退して楽になろうと考えるので、せっかくのお命いただいた人生なんですからね、最後まで充実した生き方をしたいものです。

印象に残ったのは、大島さんの、まず素直に受け止め、次にどう進めばよいか、じっくり考える姿勢です。周囲に振り回されず貫く意志の強さにも感心させられました。



「女性だから…」と退かず、登用のチャンスは生かしたいですね。そうすることで、女性が発言できる環境になり、さまざまな分野に多様な価値観と発想が取り入れられると思います。



あいち国際女性映画祭一宮市会場を開催しました

9月11日（日）に（財）あいち男女共同参画財団との共催で「私の少女時代（中国映画、日本初公開作品）」の上映と監督兼プロデューサーのチャオ・ホイリー監督を招いてトークショーを行いました。

○「私の少女時代」上映

中国障害者連合会の女性会長チャン・ハイディーさんの自伝「車椅子の上の夢」を元にした、チャオ・ホイリー監督（兼プロデューサー）とその夫のフェン・ゼンジ監督との共同作品です。1960年代後半の中国が舞台となっています。主人公のファンダンは下半身不随のため、身の回りのことが一人でできず絶望することもありました。しかし田舎の子どもたちや村民に助けられ、その恩返しをしたいと鍼（はり）医者を志し、障害にもめげず、明るく前向きに暮らしていきます。



○トークショー概要

（司会者）なぜ、この作品を映画化しようと思いましたか？



（チャオ・ホイリー監督）この映画は原作者のチャン・ハイディーさんの少女時代を描いたものですが、その当時の中国は生活は苦しかったが心が美しい時代でした。現代はそういう心を忘れてしまいました。特に若い世代は自分だけ良ければよいと考え、生きる目的を忘れてしまいました。映画のラストシーンを見て泣いている方がいたのは、皆さんがとても美しい心を持っていて一生懸命生きようと思う心があるからだと思います。監督として非常にうれしく思いました。日本では、先に大きな地震がありましたが、被災された地域だけでなく、日本全国で被災された地域の方を助けている姿や、被災者の方自身も努力して頑張っている姿を

見まして、まさに「足るを知る」という一言に尽きると思います。また、被災者の方が非常に強い心を持って、お互いに助け合いながら生活しているのを見て大変感動しております。

トークショーの後半に、フェン・ゼンジ監督が登場され、「一宮永福」の書をいただきました。

（フェン・ゼンジ監督）今回、日本に来てから、一宮市が市制 90 周年を迎えるということを知り、日本で紙と筆と墨を買い、制作しました。ここに書かれてある「一宮永福」ですが、日本にも中国にも漢字がありますのでなんとなく意味が分かると思いますが、「一宮市が永遠に幸せになりますように、一宮市の市民の皆様がずっと幸せでありますように」という気持ちを込めて、この 4 文字を贈りたいと思います。



（あいち国際女性映画祭一宮市会場については、企画政策課のホームページでも紹介しています。）

女性のチャレンジを応援します！関連サイトができました

- ◇ あいち女性のチャレンジ応援サイト <http://www.will.pref.aichi.jp/aichallenge/>
就職、起業、キャリアアップ、NPO・ボランティア活動など、「何かしたい」「何か始めたい」女性にとってのお役立ち情報が満載です。
- ◇ ポジティブ・アクション情報ポータルサイト <http://www.positiveaction.jp/>
企業のポジティブ・アクション（女性の活躍推進）に関する各種情報を提供しています。

公園通法律事務所 弁護士法人

愛知県弁護士会所属

弁護士 瀧 康暢 弁護士 鈴木 含美
弁護士 武川 真弓 弁護士 丹羽加奈絵

<http://www.park-lo.com>

法律相談は要電話予約

相談料1回5,250円

サラ金・クレジット相談初回無料

一宮市公園通3-30-6
（一宮裁判所交差点すぐ）

TEL 0586-26-6266



離婚・DV・養育費・相続・交通事故

編集協力者／岡西 美子、横井 秀子、吉田 和江、
伊藤 孝司、岩田 宏美

編集・イラスト協力者／後藤 明美

編集・発行／一宮市企画部企画政策課

〒491-8501 一宮市本町2-5-6

TEL 0586-28-8952

FAX 0586-73-9128

eメールアドレス kikakuseisaku@city.ichinomiya.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/>

* 企画政策課のホームページでは、『いーぶん』のバックナンバーがご覧いただけます。

* 『いーぶん』は一宮庁舎などで配布しています。配布場所については、企画政策課までお問い合わせください。

『いーぶん』に対する、ご意見等をお寄せください。